

第8回 那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議

■ 日時

令和3年3月 12 日(金)10:00～11:30

■ 開催方法

オンライン会議

■ 出席者

有識者委員

- 小場瀬 令二 (筑波大学名誉教授)
- 山 島 哲夫 (宇都宮共和大学副学長)
- 松 岡 拓公雄 (亜細亜大学都市創造学部長)
- 渡 辺 美知太郎(那須塩原市長)

ファシリテーター

- 朝比奈 一郎(那須塩原市経済活性アドバイザー)

■ 議事

1. 冒頭挨拶

事務局：

予定のお時間となりましたので、只今から、第8回那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議を開催致します。まず始めに、渡辺市長から御挨拶申し上げます。

渡辺市長：

本日もありがとうございます。栃木県は、首都圏に先駆け緊急事態宣言が解除されましたが、市の独自施策として実施している格安 PCR 検査の結果をみても、今のところ陽性者数も低位に留まっている状況です。

また、昨今、廃校利用に関して、かなりの数の問い合わせを頂いており、廃校同様に、現市役所の利活用についても期待を持っております。もしも他自治体などでの良い事例があれば紹介して下さい。加えて、来年度以降は、市民の声を広く聞いていく予定ですが、コロナ禍において、良いやり方をご存知でしたらあわせて教えて下さい。現在は、わくわくトーク(上限8名)というオンラインイベントの中で、私自ら市民と対話する場を設けていますが、公民館などでのリアルな手法以外に何かいいアイデアがあれば教えてもらえると助かります。

朝比奈氏：

本日の有識者会議は、前半の説明では、大きく3つのパートに分けて進めたいと思います。まず1点目として、これまでの検討経緯、及び前回有識者会議の内容について振り返ります。続いて、2点目として、事務局からまちづくりビジョン案をご説明頂く予定です。特に、前回有識者会議以降にパブコメや市民懇談会も実施しており、その内容も併せてご紹介頂く予定です。3点目としては、来年度以降のビジョンロードマップ策定に向けた参考事例として、弊社が取り組む埼玉県越谷市の事例をご紹介します。

後半の議論パートでは、まず、前回の残論点である「新たな行政の在り方(ビジョンプロジェクト5に対応)」を議論頂きます。この点は、市として新たな行政や新庁舎をどう考えていくかという論点に加えて、市長から提起頂いた現庁舎の活用との点についても、ご意見を頂戴する予定です。続いて、まちづくりビジョンに関してご意見を頂戴出来ればと思います。また、令和3年度に策定予定のロードマップに関しては、これは、令和4年度以降の実施計画作りに向けて、基本構想に対応するものと理解していますが、こちらについても議論頂ければと思います。

2. 説明

(1)過去の経緯及び前回有識者会議の振り返り

朝比奈氏：

まず、これまでの検討経緯について簡単に説明します。まちづくりビジョン検討及び有識者会議開催の前提として、那須塩原駅前を整備という機運が高まっている中で、市庁舎の移転という起爆剤を活かして、如何に賑わいを創出するかということが論点だったと理解しています。その中で、何点か前提の変更があったことから共有させていただきます。まず、整備対象のスコープとして、ブリヂストン跡地も活用余地ありとの前提でありましたが、対象からは外れることとなりました。また、新型コロナにより世界が一変してしまったことも勘案する必要がございます。新型コロナ後の世界の変化を念頭に、市庁舎移転に関してもじっくりと議論していく土壌にあると認識しております。

続いて、前回有識者会議の振り返りについて、共有させていただきます(以降、配布資料に沿って前回の振り返りを説明)。

(2)まちづくりビジョン及びロードマップに関して

事務局：

続いて、前回有識者会議以降のまちづくりビジョンに関する検討状況をお伝えさせていただきます。1月に1か月間のパブリックコメントを実施し、1名からコメントを頂戴しました。専門用語への注釈追加などの体裁的なコメントが主でありましたが、既にコメントは反映済みです。また、1/27に市民懇談会を実施するとともに、2/5に庁内でも審議を実施しましたが、内容などに関して大きなコメントはございませんでした。

次に、まちづくりビジョンの冊子のデザインについて説明させていただきます。デザイン作成にあた

っては、まずは市民の目に触れることを重視しました。その観点から、有識者の方々の声に加えて、駅周辺の夢などの市民の方々の声もなるべく多く反映しています。加えて、なるべくたくさんの方々に共感を持ってもらう観点から、物語調の序章を設ける、市長によるメッセージページでは市長の写真ではなくイラストをあえて使うなどの対応としました。加えて、動物のキャラクターを多数用いる、未来につなげるという意味で黄色のカラーで統一するなどの工夫を行っています。

本日ご覧頂いている内容について、3月議会へ上程しており、来週には議決される予定です。

朝比奈氏：

まちづくりビジョンの冊子は大変親しみの持てるデザインだと思います。手に取ってもらえるデザインとすることは非常に重要です。よく“サーロイン(3:6:1)”といわれますが、作るところで終わってしまい、伝えるというところに力を入れられていないケースが散見されます。作るのは3割、伝えるのが6割、レビューが1割といった割合が最適といわれています。これを踏まえて、来年度にまちづくりビジョンロードマップを策定されていくものと理解しています。

事務局：

ロードマップに関しても説明させていただきます。こちらは、来年度から策定に着手して予定ですが、前々回の会議において、山島先生はじめ先生方から時間軸を設定することが重要とのコメントがあった点を踏まえたいと考えています。市内の各セクションでは現在様々なプロジェクトに取り組んでおります。まずは、本件に展開が可能なプロジェクトを洗い出し、ひとつひとつのプロジェクトで想定されている工程を並べて、時間軸を可視化したいと考えています。

また、プロジェクトとして、より具体性が求められてくると理解しています。新庁舎及びその他施設の開発は、市としてもビックプロジェクトとの認識であり、民間の力が不可欠だと考えています。民間の力を導入するために必要なもの、民間の人たちが求めているものと、我々が考えているもののギャップがないか、初期的な市場調査も行っていきたいと考えています。

加えて、市民ワークショップの開催を通じて、市民が本プロジェクトを他人事ではなく自分事として捉えてもらえるような取り組みも進めていきたいと考えています。

改めて、有識者の先生方には、2年近くの長きにわたりご協力頂き大変感謝しています。来年度以降についても、重要なタイミング毎にアドバイスを頂戴出来れば大変ありがたいです。

朝比奈氏：

ロードマップ策定に際しては、時間軸の意識に加え、具体化に向けた官民連携の検討が中核と理解しました。

(3)まちづくりビジョンロードマップ策定の参考事例紹介：埼玉県越谷市

朝比奈氏：

続いて、まちづくりビジョンロードマップ策定に向けた事例紹介として、弊社が都市政策アドバイ

ザーを務める越谷の事例をご説明します(以降、配布資料に沿って、越谷市のサンシティ整備事業について説明)。

2. 議論

(1) 新たな行政の在り方を示す街について

朝比奈氏:

ここから1時間程度議論していきたいと考えています。まずは、前回議論出来なかった、「新たな行政の在り方を示すまち」に関して議論頂きたいと思います。50-100年で見ただけに庁舎があるのか、テクノロジーの在り方など見えないところも大きいですが、先生方に議論頂きます。市長から提起頂いた、現庁舎をどう活用するのかという点もあわせて議論下さい。

山島氏:

市庁舎は市の中心になるべきものと思います。中央であることを感じられることが大事です。人が集い、様々なイベントが出来ることが重要と考えます。今の庁舎の場所は「人が集まる場所」という形になっていません。コロナの話はあるものの、人が集まるということが重要です。例えば、宇都宮では、オリオンスクエア周辺を人が集える場所として設定しています。「人が集う場所」にしていけば市の中心施設になっていきます。下野市役所でも、ロビーを民間開放可能とするとともに、市民広場も整備しています。但し、市役所の行政機能は分散化が進むはずであり、特に、デジタル化、防災への備えが重要です。

現庁舎に関しては、商業面よりも、市民活動の側面、すなわち、人が集まってくるとの観点から、一度に様々なものを整備するよりは、徐々に様々な機能を増やしていくというのが大事と考えます。

朝比奈氏:

テクノロジーの時代が進むからこそ、人が集まりやすい場所の重要性が高まると理解しています。ランドスケープデザインの観点からも、市民活動が出来る場としての、アゴラ(広場)が大事というトレンドになっています。

山島氏:

市庁舎だけでなく、市庁舎の周りに人が集まれるようにすることが重要です。

小場瀬氏:

現庁舎の活用に関しては、他の庁舎とは全く違う発想で作ることがセールスポイントとなります。山島先生がおっしゃったように、人が集まる(シティホール)場所とすることは大前提です。それに加えて、分散型の新たな行政の形との観点から、本庁舎に加えて、それぞれの地区にある分庁舎へ、自宅からつながっていくというストーリーを作ることが重要です。

現庁舎は建物としての空間があるので、集会場もあったらいいと思いますが、基本は企業のサ

テラライトスタジオ、リモートワークのための働く場所といったところが一番可能性としては高いと考えます。現庁舎をそういったものに改築しつつ、現庁舎にいけば新庁舎と同じ水準の行政サービスレベルを受けられるようにすることが大事です。イメージとしては、現庁舎に来る人たちはコンピュータに強くないような市民の方々が中心となるので、必ずしも皆さんが行政サービスに直接繋がれるわけではないなかで、ちょっとしたサポートをしてくれる方々もいた方が良いかと思います。企業のサテライトスタジオ・オフィスには管理人が必要となるので、そういった方々が、いらっしゃった市民の方々にちょっとしたサポートを出来るようにしておけると良いのではと思います。

現庁舎の機能を、新庁舎と同様のサービス水準に維持することは難しいですが、それに近いサービスを、コンピュータなどのテクノロジーを用いて提供出来るようにすることが重要です。例えば、PDF などを使って簡単に文書への書き込みも可能となるなど、テクノロジーを使えば、高い水準の行政サービスを提供することは可能だと考えます。

現庁舎はかなり駐車場が整っているので、サテライトスタジオなどに転用することが容易だと考えています。商業的な使い方は難しいですが、黒磯駅からの距離もそこまで離れていないので、ビジネス向けには使い易いと思います。

折角、新たな市役所を作るのであれば、全国から注目されるものを作っていくことが重要です。市外の方々がみて、「那須塩原だったらサテライトオフィスを置きたい」と思わせる、市役所を中心としたシステムを構築することが必要です。市民へのサービスは、ある意味で当たり前であり、そのレベルに留まってはだめだと考えます。

朝比奈氏：

新しい役所はこれまでと全く異なる発想で考える必要があると理解しています。オンラインの活用の観点から、全国から注目される存在を目指しても良いと思います。例えば、那須塩原には、ABEJA という非常に有名なテクノロジー企業の社長夫妻もお住まいかと思いますが、こういった方々と連携するというのも考えられるかと思います。例えば、私は、教育のICT化に向けた会議のオピニオンリーダーを務めさせてもらっていますが、その中では、企業のサテライトオフィスやテレワーク拠点を活用して、家でオンラインにアクセス出来ない子供向けに、オンライン授業を受けさせるといった話も進んでいます。教育格差が家庭毎に非常に大きい中で、テレワーク拠点や図書館などにいるビジネスパーソンが子供たちに教えるといったことも考えられています。

松岡氏：

お三方のお話はその通りだと思います。庁舎を含めた新しい行政の方向性の話は非常に大事です。まず目前の課題のうち何を解決する必要があるのか、そのうえで未来のビジョンはどうするかを、ぶれないで市民に伝えていかないとはいけません。

街や都市といったイメージではなく、田園都市といったコンセプトの方が良いのではと思います。まちづくりビジョンで描かれているものは、のんびりしていて、食べ物がおいしく、自然に溢れ、歴史的に価値の高いものが残り、そして、最も重要なものとして市民が積極的にまちづくりに参加し

ているという世界観だと理解していますが、まさに、田園都市を構築するということだと感じています。空間、時間に加えて、人間軸も必要だと思えます。まずは田園都市としての魅力を打ち出すことによって、企業や人が来なくなる街を作っていくことが重要です。

その中で、分散化も位置付けることが必要です。現庁舎を壊してしまうのはもったいないと思います。市民が集える場所として活用していくことも重要です。例えば、東京都武蔵野市の武蔵野プレイスでは、図書館機能などを有していますが、階段でミニレクチャーを行えたり、お茶を飲みながら雑誌を読めたり、市民に開かれた施設となっています。住民票が取得出来るといった基本的な機能は大前提として、どう市民に開かれた場所を作っていくかが重要です。

そういった構想をマスタープランとして、今後作っていく必要があります。まちづくりロードマップを市民と共同して作っていく姿勢が非常に大事です。その姿勢をはっきりと打ち出していくことが、那須塩原の特徴になっていくと思います。まちづくりのための要素はたくさん持っています。市民を巻き込みながら、その要素を具体化しながら、田園都市としての庁舎の在り方を議論したら良いのではと思います。

朝比奈氏：

私たちがまちづくりに関わりたいと思わせる松岡先生のお話、大変ありがとうございました。ご提示頂いた、時間、空間、人間というキーワードも重要だと思えます。また、武蔵野プレイスの事例も大変参考になります。

松岡氏：

ちなみに、武蔵野プレイスでは、ボランティアをうまく使っています。やる気と元気のあるシニアはたくさんいます。そういった方々に働ける場所を提供することも重要で、武蔵野市は複数の施設でボランティアの方々に活躍頂いています。どうやってコミットさせていくか？ということがキーワードになります。

渡辺市長：

先生方のお話で大変感銘を受けました。山島先生には、県内の有名な庁舎の話を挙げてもらってありがたいです。小場先生にはどういった庁舎を作ることが分散型の行政の実現に繋がるのかとの観点からお話を頂きました。松岡先生からは、分散化の中での魅力的な庁舎についてお話頂きました。

足下では、廃校利用の問い合わせを多数頂いています。例えば、海外の学校の分校を作る、自律分散型の施設を作るなど、廃校が足りないくらいの状況です。現庁舎もかなりのニーズが出てくるのではという感触は持っています。

ただ、従来のように庁舎と行政が完結していた前提が変わり、市の行政機能全体における本庁舎の機能の在り方については、気を付けて検討を進めていきたいと主増す。那須塩原市としての行政機能はどうあるべきか？その中で、本庁舎や各分庁舎の機能はどうあるべきか？といったプ

ロセスで考えるべきで、単に本庁舎のことを考えれば良いわけではないということだと思います。

小場瀬氏：

本庁舎といろんな分庁舎の関係全体で役所機能の整備を進めることが重要です。市民が市からのサービスを受けるうえで、本庁舎のみからサービスを受けられれば良いのではないと思います。

但し、一方では、「市民が集まる」ということも重要です。皆が集まって何かをやるということが非常に大事です。更にコンピュータの時代が進むと、それさえも非リアルの空間に移行するということになるかもしれませんが、空間として、どこかに集まるということの重要は変わらないと考えます。

イメージとしては、シティサービスは分散化し、少し歩いていったら行政サービスを受けられるというのが当たり前になる一方で、シティホール機能は残るとい世界です。

朝比奈氏：

小場瀬先生が指摘されたバーチャルとリアルの切り分けをどう考えていくのかというのは重要な論点です。那須塩原でも旧戸田小学校の活用など、様々な場の活用の仕方があるはずと感じています。

(2) 令和3年度のまちづくりロードマップに関して

朝比奈氏：

続いて、まちづくりビジョン全体への感想や、それを踏まえた、ロードマップ作りなどの来年度以降の進め方について議論頂きます。

山島先生：

ロードマップの前に、まちづくりビジョン(案)について申し上げます。デザインも親しみやすく、市民が参加して作った様子が見え、内容も読み易くて良いと思います。少し気になったのが、P8の基本コンセプトの「基本コンセプト及びビジョンプロジェクト構成図」に関して。ビジョンプロジェクトを進めることで、最後に、基本コンセプトが実現されるとの順番と思いますが、ビジョンプロジェクトの7項目間の関係性が若干分かりにくい印象です。私の理解では、まず基本になるのは、(1)市民が愛し誇れるまち。そういった街になるために、(3)個性を感じ、(2)歴史・文化があり、(6)次代に選ばれることが必要であり、それには(4)自然とテクノロジーが調和しており、全体を囲むものとして、(5)変わっていく行政と市庁舎があるという整理かと思います。7つのプロジェクトの関係性を整理出来ると、今後の進め方がより分かりやすくなると思います。

また、個々のプロジェクトに関しては、既にやっていること、これから進行していくこと、30年後に実現することが、同じような書き方になっている印象です。例えば、(4)「自然とテクノロジーが調和するまち」でいえば、30年後に企業が定着するというイメージですが、その前にやっていくべきことはちゃんと整理して書いた方が良いのではと思います。恐らく、集まってくる企業も、百貨

店などの大型店が中心というよりは、人が集まってくる、多様な施設があるイメージなのではないでしょうか。逆効果についても議論が必要な印象です。

また、細かい点ですが、P8の図表については、薄い青の中の白抜きは読みにくいので修正してもらえると助かります。また、我々の発言ももう少し分かりやすいトーンで記載頂ければと思います。時間の制約もあると思うので、可能な範囲で反映してもらえるとありがたいです。

朝比奈氏：

細やかなコメントを頂きありがとうございます。プロジェクト相互の関係についても、非常に重要な論点かと思います。

小場瀬氏：

ロードマップに関しては、令和3、4年度にロードマップを提示するという大きな流れは良いかと思います。特に、令和3年度には、市民懇談会やワークショップなどで、市民との本格的な議論を進めて欲しいです。

市民からのコメントとして、「駅前にはショッピングセンター欲しい」など多様なものが出てくると思いますが、自身では行わない場合が主です。これからは人口が減っていく中で、市が中心となり、東京などから事業者を連れてきて、市が潤沢に資金を拠出するといった前提が変わることは明確に示す必要があります。より市民が積極的にまちづくりに参加する必要がある、例えば、ボランティアなどでより積極的に関わってもらうことが条件となるといった点は、しっかりと伝えるべきと考えます。そうした方が市民との対話もより実質なものになると思います。

人口が減少する中で、今まで作った公共施設が大量に利用されなくなる時代がきます。また、観光需要の取り込みについても、様々な自治体が狙っており、競争はより激しくなります。そういった状況の中で、「公共が作ったものを公共が使う」との発想は転換し、「公設民営」などの民間活力の導入によりシフトしていく必要があります。例えば、地元住民で使うニーズがあれば使ってもらうが、仮にニーズがないのであれば、潰してしまうという発想です。現庁舎も同じような発想で考えるべきと考えます。

例えば、北斗市などでは、学校を役所に転換するといことを試みています。学校の良さはグラウンドがあるということで、グラウンドを駐車場として活用するなど、様々な用途が考えられます。公設ではありますが、その校舎をうまく使ってもらうことが重要です。学校の施設はコンクリートで作ってあればかなり耐久性はあるはずなので、再利用はし易いかと思います。市として、民間に対して、「うまく使って下さい」という態度を見せれば、民間企業も集まってくると思います。最先端の情報系の企業なかで、田園都市のようなところに本社を持ちたいとのニーズは強い印象です。

那須塩原はこれまでは観光都市のイメージでしたが、官能都市といったワードも出ましたが、官能田園といった、単にのんびりした田園ではないという都市を、新しい庁舎だけでなく、新しい役所システムも含めて、目指したら良いのではというのが私のアイデアです。

朝比奈氏：

多岐にわたるアイデアを頂きありがとうございました。おっしゃる通りで、住民が自走していくことが非常に大事かと思えます。主体的な市民を中心とした街づくりを考えていく必要があります。

松岡氏：

小場瀬先生がおっしゃった点は非常に面白いポイントです。いずれにしても、市民が中心であるということは変わりありません。いわゆるシビックプライド(自慢出来る)を持てるからこそ、人を連れて来たいと思えます。ロードマップに関しては、市民が中心のまちづくりを目指して整備していく必要があります。

また、目に見えるものに加えて、目に見えない仕組みも大事。そして、どこから手を付けて、最後には、どこを目指すのかということ、ちゃんとつなげてロードマップとして、マスタープランにしていかなければなりません。ちゃんと、目指すべき姿から、バックキャスト(逆算)して、考えていく必要があります。

具体的な目指す姿としては、那須連山の眺望が支点になると思えます。駅周辺のどこからでも那須連山が見えるように設計する。例えば、大津市などは、琵琶湖を支点として定めてまちづくりを進めています。支点を定めたいうで、何を残し、何を作るのかを決めていく、そして、それを市民とともに作っていくと非常に面白いロードマップになります。

山島氏：

松岡先生が田園都市ということに言及されましたが、ガーデンシティという言い方で考えると、イメージが凄く良くなると思えます。例えば、那須塩原ガーデンシティというイメージです。

駅前であれば、居場所がないことが最大の問題と思えます。市役所整備も当然進めていく必要がありますが、その後に民間をどうやって巻き込んでいくかが非常に大事です。その際に、ガーデンシティという絵がどう具体化されていくのかというものを具体的なイメージとして示すことが重要です。言い換えると、何が、どうやって建っていくのか、というものをちゃんと示すことです。

例えば、市街地に景観重点地区を定めると、少なくとも、どんなものがその場所に出来ないかは明確になります。「自由に考えてもらって構わない」となると、逆に民間は入ってきにくくなります。また、直ぐにでも民間を巻き込んでいくためには、30年後の姿を作って示していく必要があります。

朝比奈氏：

精力的にご議論頂きありがとうございました。市庁舎からのまちづくりビジョンやロードマップ策定に関する議論は、ひとまずはここまでとさせて下さい。全8回の長期間にわたりありがとうございました。

渡辺市長：

いつも勉強になる議論をありがとうございます。お話を伺っていると、那須ガーデン・ガストロノミー・シティといったコンセプトもあり得るかと感じました。那須塩原駅前を、栃木県北の玄関口としてどう整備するのか、そして、その中で、庁舎をどのような形にするのか。また、その際には、行政機能をリアルとバーチャルでどう構成していくのかという点も非常に重要です。庁舎に関しては、行政機能の在り方の中で、どう位置づけるのかをしっかりとコーディネートしながら、検討を進めたいと思います。引き続き、来年度も皆さまからご指導賜りながら検討を進めていきたいと考えていますので、どうぞ宜しくお願い致します。また、これまでの議論の内容もしっかりと糧にしていきたいと思います。

事務局：

今年度でまちづくりビジョン策定が完了する見込みであり、ここに至るまでの有識者の皆さまのご協力に深く感謝を申し上げます。本日も指摘頂いたコメントについては可能な限り反映させていただきます。また、来年度以降、より具体的なまちづくりの議論が進んでいきますので、引き続きご指導ください。

以上